

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成27年5月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793300118		
法人名	有限会社フレンド		
事業所名	グループホームフレンド天下茶屋		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市西成区天下茶屋北二丁目1番22号		
自己評価作成日	平成27年3月6日	評価結果市町村受理日	平成27年7月13日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成27年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、住もう方の安全と安心を支える環境を第一に考え、穏やかな生活を送っていただきます。忘れる事や出来ない事が増えても、ゆったりと楽しくありのまま残された力で自分らしく生活できる様、スタッフが真心こめてお手伝いします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

南海本線「萩ノ茶屋」駅から徒歩5分ほど、商店街を抜け、三角公園のすぐ傍に「グループホームフレンド天下茶屋(以下、「事業所」という。)」がある。利用者のほとんどが、かつてこの地域を拠点として生活してきた人たちであり、利用者18名中、女性は5名と、男性が多勢を占めるグループホームである。

事業所は「地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳ある生活。その人がその人らしく暮らす。」という地域密着型サービスらしいわかりやすい理念を掲げ、日々の散歩やスーパーマーケットへの買い物を通じて、地域との交流を図りながら、利用者が地域で安心して生活が継続できるよう支援に努めている。

事業所では、昼食前の嚙下体操や、午後3時のラジオ体操を日課とし、また、ティーパックを束ねたり、食器拭きやおしぼり巻きなど、利用者の能力に応じて無理のない程度に役割りをもってもらい、ADL低下の抑止に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊敬のある生活 「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」 を理念としている。その人らしい生活、暮らしを支える意味をよく話し合い、現場で生かされるように取り組んでいる。	地域の中で、尊厳のあるその人らしい暮らしを支える旨のグループホームとしてわかりやすい理念をつくっている。理念は玄関や台所に掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、管理者は、新人研修や日頃のミーティングの中で理念を確認し、職員が理念の実践に取り組めるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はないが、今後、地域の老人会や町内の行事には参加しようと思っている。	日頃から事業所と地域とのつきあいは希薄であり、利用者が散歩等で外出した際に、近隣住民と顔を合わせる程度である。	法人理念の実践や地域密着型サービスであることの意義を踏まえても、利用者が地域の中で暮らし続けるためには、地域と事業所とのつながりは重要である。困難な面もあろうが、何らかの取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そういった取り組みがないので、今後は例えば、散歩中に地域の子供の見守り隊として見守り役などの事をしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今後は地域の代表、地域包括支援センターの代表、入居者と現状報告を行い、意見交換を行っている。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員、利用者、事業所管理者が参加し、年に6回開催している。会議では、事業所の運営状況、行事活動等の報告の他、感染症等の対策についての意見交換を行なっている。会議で出された意見や提案を含めて議事録にまとめ、職員会議で職員に伝えている。	運営推進会議の参加者に地域の代表者を加え、地域との密接な関係を構築できる会議運営に取り組むことを期待したい。

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>行き来する事はないが、電話でのやり取りでサービスの質の向上に取り組んでいる。今後は、行き来する機会をつくり、市町村とのつながりを密にし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。</p>	<p>市町村の担当者とは法人代表者が制度等に関する質疑等を電話で行なうことで、市の担当者との協力関係の構築に向けて取り組んでいる。また、生活保護の利用者への市のケースワーカーの訪問がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>どのような状態に置かれている利用者であったとしても、身体拘束をしなくていい方法を考え、その都度スタッフで話し合い検討し実践に努めている。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアについて、職員会議等でユニットごとに職員と意見交換して、その実践に努めている。日中、玄関は開錠しているが、防犯上門扉は施錠している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体の確認、研修等の時間をとり、取り組んでいる。H26.9.24研修参加者からの申し送りも行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>簡単な資料をおいている。大切な事なので、勉強会に取り入れ、詳しく学び支援していきたい。H26.10.21研修参加者からの申し送りも行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族に分かりやすく説明し、疑問点についても、契約時だけでなく、その後においても聞いていただける様、柔軟に対応している。</p>		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情対応職員を設置し、意見を聞く機会を設け、スムーズに対応できるようにしている。意見箱の設置もしている。</p>	<p>利用者のほぼ全員に身寄りはなく、家族等の意見を聴くことができない。管理者は相談苦情担当者として、日頃のケアの中で利用者の要望等を聴き取っている。意見等は、業務日誌等に記入し、申し送り時や職員会議等で報告し、サービスに反映させるよう取り組んでいる。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングで意見を聞く機会を設け、反映できる様取り組んでいる。</p>	<p>法人代表者は、忘年会等の職員同士の親睦の場や日頃の勤務の中で職員からの意見を聴き取っている。また、管理者は、日頃から職員からの意見が出やすいように、和やかな楽しい職場作りに心がけている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>共通した知識をもち、評価をもって向上心がもてるよう働きかけている。職員には定期的に日常の悩みや意見を聞く機会を設けている。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な取組み（研究や指導）を行っているが、未だ発展途上なところが多い。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流がない。時間が許せば、大阪市のグループホーム連絡会に参加したい。</p>	/	/

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接を必ず行い、本人とも話す時間を作っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族との話合いを持つ場を大切にしていきたいが、家族のいてる入居者が少ない。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>してほしい事や訴えたい事をいち早く見つける様努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフは人生の先輩という尊敬の気持ちで接し、その場その場の会話を大切にし、昔に経験された事や調理の工夫等を学び支えあっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と話し合い、笑い、共に支えあう関係を築いている。そうしていく上で家族からの本音が聞こえる。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の面会に制限せず、友人の方の面会など可能な限り受け入れている。</p>	<p>ほとんどの利用者が、元々周辺地域を拠点として生活をしてきた経緯から、日頃の散歩で地元の商店街、公園やスーパーマーケットへ出掛けることで馴染みの人や場との関係継続につながっている。</p>	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ぼっちという場は作らず、仲間がたくさんいるという安心感をもってもらい、入居者同士が関われる場を大切にしている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないよう、どんな時でも相談していただける関係をつくっている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思っている事に希望や意思表示が困難な場合は、意思が確認できるよう工夫する。本人本位になるよう前事業所からの情報を大切にしている。	日頃のケアを通じて聴き取ったり、聞き取れない場合であっても本人の仕草や表情で把握するようにしている。把握したことは、職員間で話し合ったり、日誌や申し送りノートを通じて情報を職員間で共有している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴や暮らし方、生活環境などを家族や知人からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を大切にできるよう把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	統合的に把握し、柔軟に対応できるように努めている。	

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ガイドライン方式を活用している。作成については、ケアマネだけでなく、スタッフも交えチームで作成し、スタッフが気付いた事を介護計画に反映するようにしている。変化にその都度対応して行く為必要に応じて介護計画の見直しを行いその際は関係者にも意見を聞き計画作成を行っている。</p>	<p>介護計画は6ヶ月ごとに見直すほか、日頃利用者ごとに記録している「個人状況」に基づいてモニタリングを行い、体調に変化があれば随時介護計画を見直している。担当者会議は、管理者、計画作成担当者、介護職員が参加して月1回開催している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人ケースに日々の記録をとり水分、排泄、食事摂取量などを記載し、スタッフが情報を共有し、申し送りにも役立て、実践や介護計画に役立てている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>不穏時や必要に応じ、外出や物品を利用した支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在は民生委員との支援だけなので、今後積極的に支援していきたい。消防との連携によって、防火知識についての勉強会を予定している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用開始前からのかかりつけ医の受診をしたり、グループホームの協力医とも連携した対応をしている。</p>	<p>事業所の協力医をかかりつけ医にしている利用者が殆どである。週1回、内科及び歯科の訪問診療が行われている。外科、眼科等には職員が同行して受診している。受診結果は、申し送りノート、個人情報ファイル、お薬情報等に記録し職員で共有している。</p>	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師及び訪問看護師は、現在在籍しておりません。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報交換を密に図り、早期退院への取り組み、グループホームの復帰を協議して取り組んでいる。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意向をもとに、家族の意向なども聞き入れ、医療機関を連携し、全員で方針を共有している。	重度化や終末期のあり方について、入居時に口頭で説明しているが、事業所の対応方針を文章化していない。利用者の状態の変化に応じて、その都度本人、協力医、職員等が話し合い支援に努めている。過去に看取りをした経験がある。	重度化や終末期支援のあり方について、事業所の方針・指針を明確にし、文章化することが望まれる。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別対応マニュアルで対応を行うようにしている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、定期的な避難訓練を年間計画に取り組んでいる。	年2回昼間と夜間を想定した避難訓練を行っている。スプリンクラー、消火器、火災報知機等は設置している。地域との協力体制と災害に備えた備蓄はできていない。	地域との協力体制の構築と備蓄の検討が望まれる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>スタッフは入居者に尊敬を込めた言葉遣いで接しており、外来者への対応及び記録類の保管取扱い等、個人情報保護を心がけている。</p>	<p>高齢者の尊厳とプライバシーの保護マニュアルをもとに研修を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように意識づけを図っている。個人情報等は1階事務所の鍵付書庫に保管している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>支援内容についても、わかりやすく説明し、同意を得ている。認知症の方でも自己決定できるように情報を収集している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調・精神面を把握し、その時々本人の意向を尊重し支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洗面所を設け、女性の入居者などは毛染めもし、鏡をみる事で、身だしなみを心がけてもらえるように努めている。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>準備や片づけ、配茶・食器拭き・おしぼり巻きなど出来る人で役割分担している。</p>	<p>昼食と夕食の副食は、配食サービス会社から弁当として届いている。ご飯は事業所で炊いている。利用者は、テーブル拭き、おしぼり準備、下膳等出来ることに参加している。外食はしていないが、月に1回はひな祭りやクリスマスなどの行事食や鍋パーティーをしたり、ホットケーキ、たこ焼き、ぜんざい等利用者と一緒に手作りして食に変化をもたせ、食事やおやつの時間が楽しいものになるよう支援している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量、栄養バランスを1日全体を通し把握している。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔内の清潔保持を日常的に支援している。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>声かけや、誘導により排泄の失敗やオムツの使用を減らせるよう支援している。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄が出来るように支援している。夜間のみオムツやポータブルトイレを使用している利用者もいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給、適度な運動、トイレ座位誘導声かけ等で自然排便を促している。</p>	/	/

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの希望にあわせ、気持ちよく入浴できるように支援している。</p>	<p>入浴は、基本的に週に2～3回、主に午前中と決めているが、希望があれば午後も対応している。浴槽の湯は利用者ごとに入れ替え、好みに応じて入浴剤を使用して入浴を楽しめるよう支援している。可能な限り同性介助としている。現在、入浴を拒否する利用者はいない。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日のリズムづくりを通した安眠薬をとっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>スタッフは入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者の一人ひとりが医師の指示どおり服薬できるよう支援し症状の変化を確認している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(洗濯たたみ、食器洗い、Tパック束ね、新聞折り等)</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>近くの公園や地藏様に出かけ、季節の変化を感じてもらったり、近くのスーパーなどにも出かけている。</p>	<p>利用者の体調に配慮しながら天気のよい日には、毎朝事業所の周辺や公園へ散歩に行っている。また、近くのスーパーマーケット、商店街に出掛けたりしている。季節によっては花見や動物園、水族館等へ遠出をして気分転換を図っている。</p>	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な買物の代行や同行で、実際にお金を使う事の提供を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の代筆やポストへの投函を行ったりしている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>心地よく過ごせるように、採光や騒音に配慮し家庭的な雰囲気作りを心がけている。入居者で生花をし、玄関やフロアに置いている。</p>	<p>居間兼食堂はテレビ、ソファ、文庫本、カラオケセット等を置いて、明るく、家庭的な雰囲気作りを心がけている。壁には、行事の記念写真が貼っている。また、玄関の内側と外側に喫煙場所を作り他の利用者に配慮している。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファーやテーブルを置き、好きな場所で過ごせるよう配慮している。時には、生花や鉢植えなどを置き居心地よく過ごせるよう心がけている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりに合わせた居室の環境 作りを心がけている。	居室は、ベッド、エアコン、カラー ボックスは備え付けである。他は持ち 込み自由であるが、単身者が多く持ち 込みは少ない。タンス、写真、位牌等 を持ち込んでいる利用者をもいる。職 員からのプレゼントのカレンダーや壁 掛け等を飾り、居心地よく過ごせるよ うに支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」 や「わかること」を活かして、安全かつで きるだけ自立した生活が送れるように工夫 している	ホーム内はバリアフリーになっており、 滑り止めや要所への手すりの設置、福祉 用具の利用により、安全かつ自立した生 活が送れるよう工夫している。各居室の 入口に表札をあげ、自分の居室がわかり やすいよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない